

京都大学教育研究振興財団助成事業
成 果 報 告 書

令和 4 年 5 月 7 日

公益財団法人京都大学教育研究振興財団

会 長 藤 洋 作 様

所 属 部 局 アジア・アフリカ地域研究研究科

職 名 教授

氏 名 東長 靖

助 成 の 種 類	令和 3 年度 ・ 研究活動推進助成			
申請時の科研費 研究 課 題 名	イスラームのもう一つの自画像－インドネシア・パキスタン・トルコの事例から			
上記以外で助成金 を 充 当 した 研 究 内 容				
助成金充当に関 わる共同研究者	(所属・職名・氏名) 山根聡(大阪大学)・新井和弘(慶應義塾大学)・ダニシマズ・イディリス(京都大学)・鈴木 麻菜美(京都大学)			
発表学会文献等	(この研究成果を発表した学会・文献等) 「非アラブにおける穏健派イスラームの研究－インドネシア・パキスタン・トルコの事例か ら」プレ研究会(2022年3月22日オンライン開催)			
成 果 の 概 要	研究内容・研究成果・今後の見通しなどについて、簡略に、A4版・和文で作成し、 添付して下さい。(タイトルは「成果の概要／報告者名」)			
会 計 報 告	交付を受けた助成金額	1,000,000	円	
	使用した助成金額	1,000,000	円	
	返納すべき助成金額	0	円	
	助成金の使途内訳	費 目	金 額	
		資料費	354,252	
		資料分析人件費	337,920	
		作業謝金	9,100	
旅費		255,440		
その他(翻訳料)	43,288			
当財団の助成に つ い て	(今回の助成に対する感想、今後の助成に望むこと等お書き下さい。助成事業の参考にさせていただきます。) 科研費不採択の1年間、翌年度以降の採択に向けて準備することができ、無事に採択と なりました。大変有意義で、助かりました。今後ともこの助成活動をお続け頂きたいと存じ ます。			

成果の概要／東長靖

研究科題名：「非アラブにおける穏健イスラームの研究－インドネシア・パキスタン・トルコの事例から」

研究内容

本研究は、イスラーム研究で主たる対象となっているイスラーム法中心・アラブ世界中心のイスラーム理解に対して、アンチテーゼを示そうとするものである。そのために、スーフィズム（イスラーム神秘主義）や聖者信仰に基礎を置く、別のタイプのイスラーム理解を、トルコ、インドネシア、パキスタンにおける「穏健イスラーム」から見出そうとしている。具体的には、トルコの「トルコ・イスラーム総合論」、インドネシアの「インドネシア型イスラーム」、パキスタンの「寛容のイスラーム」をいう概念を取り上げ、次年度以降の科学研究費基盤（A）（採択済み）のパイロット研究を1年間行った。

研究成果

申請時の計画では、1年間のパイロット研究の成果を、一般聴衆向けに分かりやすく語る講演会を予定していたが、本研究実施期間中に科研費の採択が決まり、本格的な5年間にわたる研究を開始するめどがたったことから、むしろその出発点となるプレ研究会を開催することとした。具体的な内容は以下のとおりである。

研究会タイトル：「非アラブにおける穏健イスラームの研究－インドネシア・パキスタン・トルコの事例から」プレ研究会

日時：2022年3月22日（オンライン開催）

発表：

東長靖「趣旨説明」

山根聡（大阪大学）「パキスタンの政治家の資質とスーフィズム」

新井和広（慶応義塾大学）「インドネシア固有のイスラームとスーフィズム：イスラム・ヌサンタラとの関係から」

ダニシマズ・イディリス（京都大学）「国家とスーフィズムの和解か摩擦か：トルコイスラーム総合論の軌跡と展望」

本プレ研究会には、発表者だけでなく、新科研メンバー全員（9名）が参加して、本格的な研究開始に向けての議論を行った。

今後の見通し

上述したとおり、2022年度から5年間、科研Aで研究を遂行できることになったため、上述の研究内容に従って、研究を進めていきたい。手法としては、文献（書籍・パンフレット類など）解析と、現地におけるインタビューの両方を用いることとしている。